

赤ちゃんの 予防接種 スケジュールは とても忙しい

赤ちゃんは生まれてすぐに、予防接種という大切なイベントを控えています。予防接種はワクチンを使って、病気の予防や症状を軽くするために「免疫」をつけるもので、「病気にかかる前に接種しておくこと」がいちばんのポイントです。でも、ワクチンはたくさんあるし、下の図のように予定もびっしり。さらに生後2か月から接種できるワクチンもあるけれど、実際には、生後3か月から開始していることも多く、まるで芸能人のような忙しいスケジュールです。

ワクチン	生直後	6週	2か月齢	3か月齢	4か月齢	5か月齢	6か月齢	備考
インフルエンザ菌b型(ヒブ)			1回目	2回目	3回目			1歳を過ぎたら4回目も忘れずに
肺炎球菌(PCV13)			1回目	2回目	3回目			1歳を過ぎたら4回目も忘れずに
B型肝炎(HBV)	定期接種		1回目	2回目				3回目は7~8か月に(対象は0歳児のみ)
	母子感染予防							健康保険での接種時期(0、1、6か月)
ロタウイルス	1価*		1回目	2回目				
	5価*		1回目	2回目	3回目			
四種混合(DPT-IPV)				1回目	2回目		3回目	1歳を過ぎたら4回目も忘れずに
BCG								推奨期間は7か月まで 定期接種は1歳まで

 定期接種の推奨期間
 任意接種の推奨期間
 定期接種の接種可能な期間
 任意接種の接種可能な期間

*接種する場合は、いずれか1種類

日本小児科学会ホームページ(2016年10月1日版)を参考に作成

予防接種は、 なんと半年間で最大で14~15回も



ワクチンにはいくつかのタイプがあります。赤ちゃんを病気から守るためには、何回も接種が必要なワクチンが少なくありません。たとえば、生後6か月までに接種が望まれるワクチンには、定期接種の四種混合(DPT-IPV)ワクチン、BCG、ヒブワクチン、肺炎球菌ワクチン、B型肝炎ワクチンに加えて、ロタウイルスワクチンがあります。これらを別々に接種すると、最大で14~15回も接種が必要になります。しかも、ワクチンの接種後は何日かあいだを空ける必要があるため、その日数も計算すると実はあまり時間に余裕がないのです。

赤ちゃんを 「生後2か月からワクチンデビュー」 させよう



それでは、プレママ、新米ママのみなさんは、どうしたらよいのでしょうか?それには早めに計画をたてて、**赤ちゃんを「生後2か月からワクチンデビュー」させることがポイントです。**できるだけ早く予防接種を始めれば早くから病気を予防できるだけでなく、スケジュールにも余裕が出てきます。生後2か月からワクチンデビューをするには、1か月健診の頃に計画を立てるのがひとつの目安になります。また、効率よく予防接種を行う方法として、いくつかのワクチンをまとめて接種する「同時接種」という方法もあります。